

2-2-1)

2013.8.24 田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト
交流会in登米資料 登米市市民生活部環境課

登米市生物多様性ため戦略の策定

登米市環境課 佐々木修一

本市の豊かな自然やその恵みを将来に継承していくため、生物多様性の保全とその持続可能な利用に向けて、行政と市民が一体となって取り組んでいくべきことを示す「登米市生物多様性ため戦略」を、平成24年度に登米市生物多様性ため戦略検討委員会を設置し、平成26年度の策定に向けて取り組んでいます。

検討委員会では、市内を三つのエリアに分け、北上川の東側を「人と森の共生エリア」、市中央部を「人と農の共生エリア」、市西側を「人と水辺の共生エリア」として、イヌワシの保全や自然と共存する農業の推進、渡り鳥の生息環境の改善について検討を行っています。

イヌワシやガン類などの希少種を保護するため、国の天然記念物に指定された翁倉山などの里山から農耕地や市街地、そして、ラムサール条約湿地である伊豆沼や蕪栗沼などの湿地帯まで、それぞれ特色のある自然環境の保全・創造の取組と、市内におけるエコロジカルネットワークの構築を目指していきます。

また、本市の生物多様性の保全を進める上で、水辺や森林及び、それらの自然環境を利用する多くの生きものを介してつながる周辺自治体との連携により、流域等を単位とする、より広域の取組への展開を検討しているところです。

イヌワシが舞い、ガンが飛来する 登米市

